

## 「雷電」ブランドの保護

（地域知財活性化行動計画）に基づく「都道府県の特徴を踏まえた平成31年度までの目標」達成のために / 第2稿）

長野県知財総合支援窓口 久保 順一

### 1. はじめに

木曾郡上松町出身の大相撲力士御嶽海関の大相撲名古屋場所（2018年7月）の優勝で、長野県出身力士「雷電為右衛門」（以下「雷電」と記載）の偉業が見直されています。

「雷電」は、江戸時代中期の1767年に現在の東御市滋野乙に生まれ、戦績254勝10敗、勝率9割6分2厘という驚異の強さを誇りました（ちなみに、白鳳は8割4分6厘、大鵬は8割3分8厘(数字はウィキペディアより)）。昨年、東御市では生誕250年の記念式典が行われています。



（東御市役所前の雷電像）

### 2. 商標「雷電」の登録状況

「雷電」は、長野県、特に東御市にとって全国に通じる大きなブランドであり、地域振興に貢献する知名度があると考えられます。

(1) そこで、「雷電」の文字を含む商標の登録状況を確認しました。

- ① 現在27件が登録され、1件が出願中の状態にあります。
- ② 商標登録は、1979年に長野県内他市の酒造会社が酒類で登録したのを最初とし、1986年に東京の企業がゲーム機で登録しています。1990年代に入ると若干増加傾向になります。

上記の件数や時期から、雷電が歴史上の人物と言われながらも、あまり注目されていなかったことを示唆しています。

- ③ 地元での状況は、東御市の業者が最初に出願を行なったのが2004年であり、現在までに2社4件（全体の11.5%）が登録されています。

(2) 類似群コード数についても確認しました。

全件のコード数の合計が46に対して、東御市内出願のコード数は、7個で全体の15%でした。

表1. 出願件数データ

	件数（登録）	比率
全国	28件	———
出願人が長野県内	8	23%
出願人が東御市内	4	11.5%

注：縁故者の子孫による商標登録1件は、図形が中心であるため算入していません。

表 2. 類似群コード数データ

	類似群コード数	比率
全国	46	———
出願人が東御市内	7	15%

### 3. 課題

前記より、以下の課題が挙げられます。

- ① 地元の自治体や公的機関（商工会議所等）による権利取得がありません。  
このことは、NHK大河ドラマ「真田丸」における上田市や、「おんな城主直虎」における浜松市で経験したように、商標の利活用により地元で幅広い産業振興を行おうとしたときに、活用できなくなる恐れがあります。
- ② 合わせて、地元企業による商標登録件数や類似群コードの数も少ない状態にあります。地元の自治体や公的機関が所有していなくとも、地元企業が保有していると産業振興になる可能性があり、また、公的機関を交えた話し合いにより、地域全体で利活用できる可能性も高くなるのですが、県外の企業等が保有していると障壁が高くなります。

### 4. これからの「雷電」ブランド保護について

以上より、例えば以下の方策が考えられます。

- ① 現在まだ登録されていない類所群コードを調べ、かつ、地元での活用可能性を掛け合わせて権利化を行うこと。
- ② 前記とは別に、幅広く共用可能なマークを新規に考え、権利化し、地域での使用を推奨する。

これらは、地域振興の観点から、自治体や公的機関が推進することが望ましいと考えられます。

以上、知的財産面からの検討に基づく考察を申し上げました。今後の参考になれば幸いです

以上

(原稿作成 2018年9月)